



2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月15日

上場会社名 株式会社サックスバー ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9990 URL <http://www.sacs-bar.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 木山 剛史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 (氏名) 山田 陽 (TEL) 03-3654-5315
 定時株主総会開催予定日 2026年6月25日 配当支払開始予定日 2026年6月26日
 有価証券報告書提出予定日 2026年6月24日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期の連結業績(2025年4月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	51,270	△1.9	3,163	△21.8	3,261	△21.0	1,907	△25.1
2025年3月期	52,289	0.4	4,044	7.4	4,130	7.3	2,545	2.3

(注) 包括利益 2026年3月期 2,219百万円(△14.2%) 2025年3月期 2,587百万円(1.0%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	65.64	—	6.3	8.0	6.2
2025年3月期	87.59	—	8.9	10.4	7.7

(参考) 持分法投資損益 2026年3月期 ー百万円 2025年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	41,714	30,889	74.1	1,063.12
2025年3月期	40,313	29,541	73.3	1,016.71

(参考) 自己資本 2026年3月期 30,889百万円 2025年3月期 29,541百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	2,674	△1,949	△702	5,756
2025年3月期	3,125	△437	△1,095	5,733

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2025年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00	871	34.3	3.0
2026年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00	1,016	53.3	3.4
2027年3月期(予想)	—	0.00	—	35.00	35.00		48.1	

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日~2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,394	3.5	1,401	2.4	1,441	1.6	906	5.3	31.21
通 期	53,513	4.4	3,348	5.8	3,426	5.1	2,112	10.8	72.72

※ 注記事項

- (1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期	29,859,900株	2025年3月期	29,859,900株
② 期末自己株式数	2026年3月期	803,864株	2025年3月期	803,764株
③ 期中平均株式数	2026年3月期	29,056,084株	2025年3月期	29,056,139株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4.「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2026年5月20日(水)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算補足説明資料については、同日、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(セグメント情報)	14
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、米国の関税政策、長期化するウクライナ情勢及び中東情勢の緊迫化、中国経済の停滞など、海外要因による景気の先行き不透明感は依然として続きました。

流通業界におきましては、インバウンド需要は、中国からの訪日客が大幅に減少したものの、その他の国・地域からの来訪者が増加したことにより、総じて堅調に推移しましたが、円安や原材料・エネルギー価格の上昇に伴う物価高が賃金の伸びを上回り、消費者の生活防衛意識が一段と強まる中、消費行動はより慎重さを増し、さらに、原価の上昇、人手不足や人件費の上昇などにより、企業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続きました。

このような状況下で、当期の連結業績につきましては、売上高は51,270百万円(前期比1.9%減)となりました。インバウンド売上は堅調であったものの、国内需要がやや弱含みで推移したことに加え、店舗数の減少も影響しました。利益面では、売上高の減少に加えて、粗利益率の低下と人件費の上昇などによる販管費の増加により、営業利益は3,163百万円(前期比21.8%減)、経常利益は3,261百万円(前期比21.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,907百万円(前期比25.1%減)となりました。

なお、当社グループの報告セグメントは、鞆・袋物を核とする商品販売の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

事業部門ごとの状況は、以下のとおりであります。以下の数値につきましては、事業部門内の取引消去後かつ事業部門間の取引消去前のものを記載しております。

小売事業につきましては、「ニュー・センセーション」をテーマに掲げ、「リアル店舗の2グループ化」、「キャラクター商品の強化継続」、「若年層ターゲットへのアプローチ」に取り組んでまいりました。

「リアル店舗の2グループ化」につきましては、各グループそれぞれの顧客ニーズに応える売場づくりを推進いたしました。「プレミアムストアグループ」では、高級感のある店舗づくりと、接客サービスレベルの向上に努めるとともに、高感度でファッション性の高いブランドの導入、拡大を積極的に進めました。

「ニュースタンダードストアグループ」では、プライベートブランド(PB)、ナショナルプライベートブランド(NPB)を中心としたバッグ、財布などの品揃えに注力するとともに、「キャラクター商品の強化継続」として、キャラクター雑貨を集約した「キャラクターパーク」コーナーの導入を推進し、さらに季節に合わせた服飾雑貨や傘など、品揃えの拡充に取り組みました。

なかでも、キャラクター商品及びトラベルバッグに特化した「キャラトラステーション」の店舗は、国内外の幅広い顧客層の高い支持を得ました。また、PBにおけるキャラクターコラボの拡大や、別注による人気キャラクター商品の確保などにも努め、商品力の向上と売上拡大に取り組んでまいりました。

「若年層ターゲットへのアプローチ」につきましては、SNSのインフルエンサーとのコラボやWEB発信を活用したプロモーション、DtoC型の販売手法など、新たなマーケティング施策を展開し、若年層を始めとした新しい顧客層の獲得につなげてまいりました。

OMO(Online Merges with Offline)施策としては、アプリの会員数が140万人に迫り、量から質への転換を目指すため、CRM施策高度化へ向けた準備を進めました。また毎月期間限定で実施している「鞆祭」は認知度を高めており、店舗への送客、会員の新規獲得、PBの認知度・売上の向上に寄与しました。リアル店舗ECサービス(店舗でご購入いただき、商品を物流倉庫から配送する仕組み)、店舗受取サービス(自社ECでご注文いただいた商品を店舗で受け取る仕組み)は顧客の利便性が高く、引き続き、両サービスのご利用が伸びました。

PBでは、キャラクターやブランド等とのコラボを中心に商品力の強化を進めてまいりました。「モンチッチ」、 「TOM and JERRY」、 「ハローキティ」といった人気キャラクターとのコラボに加え、「Harry Potter」や「グレムリン」など名作映画とのコラボレーションも実現し、話題性の高い商品展開を図りました。また、インフルエンサーとして人気の「しなこ」とのコラボ商品など、トレンドを捉えた開発にも取り組みました。特に、人気ゲーム「ドラゴンクエスト」とのコラボ商品は発売直後に完売し、好調な販売実績を上げました。その他、「おさるのジョージ」、「Reebok」や「ABLE CARRY」等、さまざまなキャラクターやブランドとのコラボを行なってまいりました。さらに、革ブランド「kissora」におきましては、インバウンド需要の高まりを踏まえ、印伝、友禅、京織といった日本の伝統技法を取り入れた商品の拡充を進めました。加えて、海外販路拡大の取り組みとして、台湾でのPOP UP開催や展示会への出展を行ない、海外市場に向けたブランド認知の向上への取り組みを開始しました。

サステナビリティへの取り組みにつきましては、PB商品においてリサイクル素材の活用や環境負荷の少ない商品の開発を進めるとともに、各種NPO法人や社会福祉法人への売上の一部の寄付、バッグの提供など、社会貢献活動を継続して実施してまいりました。また、環境負荷低減の取り組みとして推進している不要バッグの回収・リユース・リサイクル活動につきましては、137店舗まで拡大し取り組みを強化いたしました。

人的資本経営の取り組みについては、前連結会計年度から導入準備を進めておりました新人事評価制度を当連結会計年度に運用開始するとともに、管理職育成のための制度を導入いたしました。また、企業行動規範の全面的な改定を行ない、持続的な企業価値向上に向けたガバナンス体制の充実を図りました。

店舗につきましては、大型商業施設を中心に19店舗の新規出店を行ないました。新規出店店舗の地域別内訳は、東北地区1店舗、関東地区9店舗、中部地区3店舗、近畿地区4店舗、九州地区2店舗であります。ショッピングブランドでは、株式会社東京デリカが「SAC'S BAR」、「SAC'S BAR mono+i」、「SAC'S BAR PLUS」、「GRAN SAC'S」、「DRASTIC THE BAGGAGE」、「Doux SAC'S」、「NAUGHTIAM」、「キャラトラステーション」を、株式会社ギアーズジャムが「GEAR's JAM」を、株式会社三香堂が「日乃本帆布」を出店いたしました。一方、不採算店の退店や同一施設内での複数店舗の集約化を積極的に実施したため、退店は25店舗となり、当連結会計年度末の店舗数は567店舗となりました。

品別別の売上の状況は、PB及びNPBは不調なブランドもありましたが、取り扱いを強化したキャラクターコラボ商品群がそれらの売上減をカバーし、前期比2.7%増となりました。雑貨は、アクセサリはやや低調に推移しましたが、傘やキャラクター雑貨等が非常に好調に推移し、前期比37.7%増と大幅に伸長しました。ハンドバッグは皮革製品の需要の減少傾向に加えてPBへの移行の影響により、販売点数が大幅に減少し、前期比19.0%減となりました。カジュアルバッグは、PBでの同種商品の取り扱いが増加したため、前期比9.9%減となりました。トラベルバッグはインバウンド売上の回復による恩恵は見られたものの、PB・NPBでの同種商品の取り扱いの拡大の影響により、前期比7.4%減となりました。メンズバッグや財布は高額品などの値上げにより単価が上昇したものの、その反動で販売点数が減少し、それぞれ前期比4.9%減、4.7%減となりました。インポートバッグは円安による価格高騰に伴い、取り扱いを縮小したため、前期比19.0%減となりました。

これらの結果、当事業部門の売上高は47,289百万円(前期比2.0%減)となりました。

売上総利益率は、粗利益率の高いPB及びNPBの売上伸長があったものの、粗利益率の低いキャラクター雑貨の売上が大幅に伸長したことと、PBを中心としたアプリ会員獲得・販売促進のための割引セールを積極的に行なったため、前期比0.3ポイント低下して49.9%となりました。販売費及び一般管理費率は、売上高の低下に伴い、前期比1.2ポイント増加して44.2%となりました。

製造・卸売事業につきましては、主力商品であるキャリーケースのうち、キャラクターのキャリーケースの売上が伸長したものの、高額ブランドのキャリーケースは値上げの影響により売上が大幅に減少しました。

この結果、当事業部門の売上高は4,650百万円(前期比4.3%減)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて392百万円増加し、23,214百万円となりました。これは主に、その他流動資産が72百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が37百万円増加、商品及び製品が399百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1,008百万円増加し、18,500百万円となりました。これは主に、投資有

価証券が284百万円減少、繰延税金資産が480百万円減少した一方で、有形固定資産が1,466百万円増加、退職給付に係る資産が252百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べて1,401百万円増加し、41,714百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて585百万円増加し、7,102百万円となりました。これは主に、未払法人税等が198百万円減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金が600百万円増加、その他流動負債が234百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて532百万円減少し、3,721百万円となりました。これは主に、リース債務が37百万円増加した一方で、長期借入金が300百万円減少、退職給付に係る負債が268百万円減少したこと等によるものであります。

以上の結果、当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて52百万円増加し、10,824百万円となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末に比べて1,348百万円増加し、30,889百万円となりました。これは主に、剰余金の配当871百万円による減少があった一方で、親会社株主に帰属する当期純利益1,907百万円の計上等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べて23百万円増加し、5,756百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて451百万円収入が減少し、2,674百万円のプラスとなりました。

主な収入要因は、税金等調整前当期純利益の計上額3,062百万円、未払金の増加額233百万円であります。

一方、主な支出要因は、棚卸資産の増加額398百万円、法人税等の支払額996百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて1,512百万円支出が増加し、1,949百万円のマイナスとなりました。

主な収入要因は、投資有価証券の売却による収入2,000百万円であります。

一方、主な支出要因は、新規出店及び改装等に伴う設備投資2,048百万円、投資有価証券の取得による支出1,800百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて393百万円支出が減少し、702百万円のマイナスとなりました。

主な収入要因は、長期借入れによる収入500百万円であります。

一方、主な支出要因は、長期借入れの返済による支出200百万円、リース債務の返済による支出170百万円、配当金の支払額871百万円であります。

(4) 今後の見通し

次期につきましては、米国の通商政策の動向や中東情勢の緊迫化に伴う原油、エネルギー価格の高騰など、地政学的リスクが高まっており、景気の下押し要因となる可能性があります。国内経済においては、賃金上昇を受けた個人消費の持ち直しが期待される一方、物価高の長期化や実質賃金の伸び悩みにより、消費者の生活防衛意識は引き続き高い水準で推移するものと見込まれます。

当社グループでは、ファッショングッズ業界の常識にとらわれない新しいビジネスモデルの構築を目指す「チャレンジ&チェンジ」をテーマに掲げ、「プレミアムストアグループ、ニュースタンダードストアグループの進化」、「新業態への挑戦」、「海外卸の強化」、「MD・EC部門の強化」の4つの重点施策に取り組み、さらなる業績の向上を目指してまいります。

「プレミアムストアグループ、ニュースタンダードストアグループの進化」につきましては、それぞれのストアグループの完成形を目指し、商品ラインナップをさらに充実させてまいります。「プレミアムストアグループ」につきましては、上質なブランドの集積に努めるとともに、より洗練された空間演出にこだわり、世界最高峰のバッグセレクトショップの実現を目指してまいります。「ニュースタンダードストアグループ」につきましては、「新業態への挑戦」として、中長期的な成長ドライバーとして位置づけている「キャラトラステーション」の拡大に注力してまいります。当社初となる「洋菓子」を取り扱う新業態「キャラトラ&スイーツ」の展開を始め、従来の顧客層とは異なるニーズへアプローチすることで、新規需要の取り込みによるビジネスチャンスの創出を目指します。

「海外卸の強化」につきましては、海外市場においても日本ブランドの信頼性が高いことと、日本のキャラクターの人气が非常に高まっていることを絶好の機会と捉えて、PBやキャラクターコラボ商品などの海外卸売事業を加速させてまいります。4月の株式会社スカイルの台湾支店設立やPBの海外での展示会にも積極的に出展し、アジアを始めとする海外市場での認知度向上と販路拡大を積極的に推進してまいります。

「MD・EC部門の強化」につきましては、2026年7月、本社近隣に「クリエイティブセンター」を開設し、商品企画部門、EC事業部門、デジタルマーケティング戦略部門を同拠点に集約・統合いたします。これら3部門の連携を強化することで、商品企画から販売・マーケティングまでのプロセスを一体的に運営できる体制を整え、EC事業における顧客接点の拡大や商品企画力の向上につながる取り組みを進めてまいります。

次期の見通しにつきましては、小売事業等につきましては商業施設の新設計画等をもとに、新規出店22店舗を見込み、期中退店5店舗を見込んでおります。既存店売上高前期比は3%程度の増加を見込んでおり、さらに個別の店舗要因を加味して予測を行なっております。また、売上総利益率については0.4ポイントの改善を見込んでおります。製造・卸売事業につきましては、売上高は当期比2.0%増を見込み、売上総利益率については0.3ポイントの改善を見込んでおります。

当社グループの連結業績につきましては、売上高53,513百万円(当期比4.4%増)、営業利益3,348百万円(当期比5.8%増)、経常利益3,426百万円(当期比5.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益2,112百万円(当期比10.8%増)を見込んでおります。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な課題の一つと考えております。また、変化の激しい流通業界において、企業経営基盤を強化し、新たな事業展開に必要な資金の内部留保に努めつつ、安定的・漸増的な配当を継続することを基本方針としております。

2026年3月期の連結業績は、2025年5月12日に公表した連結業績予想を下回りましたが、財務の健全性に配慮しつつ、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするために、同日公表の期末配当金予想のとおり、1株当たり35円とさせていただきます。

次期につきましては、1株当たり期末配当金35円とさせていただく予定であります。

なお、当社は中間配当を行なうことができる旨を定款に定めております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準を採用することとしております。なお、今後につきましては、外国人株主比率の推移及び国内他社のIFRS(国際財務報告基準)採用動向を踏まえつつ、IFRS適用の検討を進めていく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,775,345	5,804,410
受取手形及び売掛金	4,224,725	4,262,264
商品及び製品	12,484,942	12,884,921
原材料及び貯蔵品	26,141	24,936
その他	310,050	237,618
流動資産合計	22,821,204	23,214,151
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,103,276	6,682,007
減価償却累計額	△3,423,023	△3,579,163
建物及び構築物(純額)	2,680,253	3,102,844
土地	1,570,381	2,533,302
リース資産	3,013,480	3,061,486
減価償却累計額	△2,672,913	△2,705,453
リース資産(純額)	340,566	356,032
建設仮勘定	863,847	891,537
その他	1,369,717	1,449,696
減価償却累計額	△1,196,874	△1,238,753
その他(純額)	172,843	210,943
有形固定資産合計	5,627,892	7,094,660
無形固定資産	147,274	175,340
投資その他の資産		
投資有価証券	4,376,931	4,092,434
退職給付に係る資産	55,057	307,173
繰延税金資産	1,193,683	713,473
敷金及び保証金	5,615,359	5,594,665
その他	482,721	529,413
貸倒引当金	△6,453	△6,453
投資その他の資産合計	11,717,299	11,230,706
固定資産合計	17,492,466	18,500,707
資産合計	40,313,671	41,714,859

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,272,266	3,273,670
1年内返済予定の長期借入金	200,000	800,000
リース債務	149,631	148,819
未払法人税等	562,754	364,261
契約負債	88,000	91,000
賞与引当金	415,236	359,749
役員賞与引当金	49,100	50,600
株主優待引当金	39,300	39,600
その他	1,740,720	1,975,229
流動負債合計	6,517,008	7,102,929
固定負債		
長期借入金	800,000	500,000
リース債務	250,055	287,520
役員退職慰労引当金	174,448	176,171
退職給付に係る負債	1,376,529	1,108,409
繰延税金負債	14,985	14,495
資産除去債務	1,333,653	1,300,566
その他	305,204	334,776
固定負債合計	4,254,878	3,721,939
負債合計	10,771,886	10,824,869
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,986,400	2,986,400
資本剰余金	4,569,597	4,569,597
利益剰余金	22,405,561	23,441,058
自己株式	△483,447	△483,528
株主資本合計	29,478,111	30,513,527
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△21,274	△89,310
退職給付に係る調整累計額	84,947	465,773
その他の包括利益累計額合計	63,672	376,462
純資産合計	29,541,784	30,889,989
負債純資産合計	40,313,671	41,714,859

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	52,289,541	51,270,536
売上原価	26,309,226	25,873,781
売上総利益	25,980,315	25,396,755
販売費及び一般管理費	21,935,772	22,232,854
営業利益	4,044,542	3,163,900
営業外収益		
受取利息	83,880	94,646
受取配当金	2,134	4,227
受取手数料	5,712	5,424
受取補償金	5,174	7,253
補助金収入	1,311	1,541
その他	23,360	20,414
営業外収益合計	121,572	133,507
営業外費用		
支払利息	23,637	30,581
貸倒引当金繰入額	6,453	—
その他	5,063	5,067
営業外費用合計	35,154	35,649
経常利益	4,130,960	3,261,758
特別損失		
固定資産除却損	18,008	35,582
店舗閉鎖損失	1,286	—
減損損失	65,845	164,001
助成金返還額	73,196	—
特別損失合計	158,337	199,584
税金等調整前当期純利益	3,972,623	3,062,174
法人税、住民税及び事業税	955,561	819,099
法人税等調整額	471,890	335,893
法人税等合計	1,427,451	1,154,992
当期純利益	2,545,172	1,907,181
親会社株主に帰属する当期純利益	2,545,172	1,907,181

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益	2,545,172	1,907,181
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△21,101	△68,036
退職給付に係る調整額	63,298	380,826
その他の包括利益合計	42,196	312,789
包括利益	2,587,369	2,219,971
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,587,369	2,219,971
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,986,400	4,569,597	20,732,074	△483,405	27,804,666
当期変動額					
剰余金の配当			△871,685		△871,685
親会社株主に帰属する当期純利益			2,545,172		2,545,172
自己株式の取得				△42	△42
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,673,486	△42	1,673,444
当期末残高	2,986,400	4,569,597	22,405,561	△483,447	29,478,111

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△172	21,648	21,475	27,826,142
当期変動額				
剰余金の配当				△871,685
親会社株主に帰属する当期純利益				2,545,172
自己株式の取得				△42
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△21,101	63,298	42,196	42,196
当期変動額合計	△21,101	63,298	42,196	1,715,641
当期末残高	△21,274	84,947	63,672	29,541,784

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,986,400	4,569,597	22,405,561	△483,447	29,478,111
当期変動額					
剰余金の配当			△871,684		△871,684
親会社株主に帰属する当期純利益			1,907,181		1,907,181
自己株式の取得				△81	△81
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,035,497	△81	1,035,415
当期末残高	2,986,400	4,569,597	23,441,058	△483,528	30,513,527

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	△21,274	84,947	63,672	29,541,784
当期変動額				
剰余金の配当				△871,684
親会社株主に帰属する当期純利益				1,907,181
自己株式の取得				△81
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△68,036	380,826	312,789	312,789
当期変動額合計	△68,036	380,826	312,789	1,348,205
当期末残高	△89,310	465,773	376,462	30,889,989

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,972,623	3,062,174
減価償却費	594,638	575,850
減損損失	65,845	164,001
のれん償却額	35,368	32,901
貸倒引当金の増減額(△は減少)	6,453	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	23,611	△55,487
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	500	1,500
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△4,537	1,722
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△47,648	△268,119
受取利息及び受取配当金	△86,014	△98,873
支払利息	23,637	30,581
固定資産除却損	18,008	35,582
補助金収入	△1,311	—
売上債権の増減額(△は増加)	537,078	△37,539
棚卸資産の増減額(△は増加)	△493,112	△398,196
仕入債務の増減額(△は減少)	81,078	1,404
未払消費税等の増減額(△は減少)	△381,567	△1,737
未払金の増減額(△は減少)	△219,319	233,263
未払費用の増減額(△は減少)	△224,699	16,281
その他	58,138	308,698
小計	3,958,772	3,604,009
利息及び配当金の受取額	101,564	97,178
利息の支払額	△23,637	△30,581
法人税等の支払額	△912,353	△996,229
法人税等の還付額	211	54
補助金の受取額	1,311	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,125,869	2,674,430
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△30,000	△24,038
定期預金の払戻による収入	18,000	18,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△342,886	△2,048,283
有形固定資産の除却による支出	△82,193	△80,555
投資有価証券の取得による支出	—	△1,800,000
投資有価証券の売却による収入	—	2,000,000
関係会社株式の取得による支出	—	△15,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△437,080	△1,949,877

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	500,000
長期借入金の返済による支出	—	△200,000
割賦未払金の増加額	151,902	190,690
割賦未払金の減少額	△173,041	△151,444
リース債務の返済による支出	△203,186	△170,550
自己株式の取得による支出	△42	△81
配当金の支払額	△871,032	△871,057
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,095,398	△702,443
現金及び現金同等物に係る換算差額	408	917
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,593,798	23,027
現金及び現金同等物の期首残高	4,139,545	5,733,344
現金及び現金同等物の期末残高	5,733,344	5,756,371

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループの報告セグメントは、鞆・袋物を核とする商品販売の単一セグメントであるため、セグメント情報について記載しておりません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	1,016円71銭	1,063円12銭
1株当たり当期純利益	87円59銭	65円64銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,545,172	1,907,181
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,545,172	1,907,181
普通株式の期中平均株式数(株)	29,056,139	29,056,084

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	29,541,784	30,889,989
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	29,541,784	30,889,989
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	29,056,136	29,056,036

(重要な後発事象)

該当事項はありません。